



てんかんセンター巡り 第26回

札幌医科大学 脳機能センター

施設概要

住所 〒060-8543 北海道札幌市中央区南一条西16丁目
電話番号 011-611-2111 (施設代表)
センターへのお問い合わせは内線33510

日本てんかん学会
専門医 9名 (脳神経外科5名、小児科2名、神経内科2名)

病床数 938床26診療科 脳波ビデオモニタリング2ユニット

特徴

札幌医科大学脳機能センターは小児科、神経内科、脳神経外科、精神科、リハビリテーション科、神経科学講座からてんかん専門医9名を含む医師と、技師、薬剤師、そして看護師で構成されています。

患者さんの入院や外来での治療だけではなく、毎週カンファレンスで情報共有をして治療の課題や方針を相談していることが特徴です。

取り組み

「脳機能センター」という名前の由来は、てんかんだけではなく、パーキンソン病・不随意運動、本態性振戦や脳腫瘍(特に神経膠腫グリオーマ)の患者さんについても専門的な治療を受けていただけるからです。

てんかんについては、外来新患数(年総数85人)、新入院患者数(年総数169人)、ビデオ脳波モニタリング施行患者数(年総数124人)、てんかん外科手術年間37件(い



JEPICA
Japan Epilepsy Center Association
全国てんかんセンター協議会

ずれも2015年)と、0歳から90歳代まで、国内でも最多の患者さんの包括的治療を担当しています。

また、脳腫瘍や脳卒中、外傷に伴うてんかんも多く、高度救命救急センターでの全身管理を必要とする重症患者さんにも高度な治療を行っています。特に、脳腫瘍の手術は年間150件程度と多く、脳腫瘍に伴うてんかんを手術で治す取り組みを行っており、脳の機能を守る^{かくせい}覚醒下手術は国内最多の経験を持っています。

札幌医科大学は北海道道立病院として、1950年から、治療困難な病気や複数の疾患のある患者さんや、医師にかかりにくい環境の患者さんへのラストホープとしての役割を担ってきており、また、遠隔地の多い地域医療の発展や災害時受け入れ医療機関としての機能が備わっています。遠隔医療にも積極的に取り組んでいます。

患者さんへのメッセージ

北海道はもちろん、国内から多くの患者さんが来られます。外国の方が治療を受けに来られることもあります。

てんかんかどうかの診断、てんかんのタイプや治

療方針の決定、薬剤調整から外科的治療の適応判断まで気軽に受診してご相談ください。

予約は医療連携福祉センターから取っていただくと、スムーズに受診できます。

(脳神経外科 三國 信啓)



パープルデーに撮影したカンファレンスメンバー

